



第40号
令和8年3月1日
発行 聖マリアの園
〒853-0052
五島市松山町 706-3
(0959)72-6129

特別養護老人ホーム聖マリアの園 施設長 村上順子

令和七年もいつの間にか過ぎ去り、令和八年の幕開けとなりました。昨年中は皆様方に大変お世話になり、事業の展開を進めることができました。ご利用者様をはじめ、職員ともども感染症にかかることなく元気に年を越すことができたことは、皆様方の感染症に対してのご理解の賜物と思えます。続けてよろしくお願いいたします。

ところで、昨年はこの日本列島をはじめ、諸外国でもいろんな災害に見舞われた年でした。地球温暖化してしまったこの地球でのいろんな災害は未然に防ぐことのできないほどの規模が多かったと思います。いつ起こるかかわからない天災、人災はまとめてやってくるので、防ごうとできないほど過ぎた年は多くの災害に見舞われた年だったように思います。大分の佐賀関で起こった火災は九州内でしたので、他人事とは思われない災害でした。また地震国である我が国においては、いとまがないほどに地震が頻発し、苦慮している。と文書を書いている途中今回もまた、5弱の地震が島根県、鳥取県において発生しました。災害はもちろん、いろんな困りごとは事情が絡み合っただけから次へと伝播していくようです。災害に見舞われた方々には、心よりお悔やみ申し上げます。

さて、周りを見回すと聖マリアの園には、昨年は高齢者の方しかも百歳を超えた方々のお別れがありました。三人とも104歳を取っていた方々でした。亡くなったときの姿は尊く慈愛に満ちた姿がそのまま表れて、人生の終焉を

使い切ったようなお別れでした。仕事柄たくさんの方々との出会いがあり、そして別れを経験しますが、お一人お一人の生きざまは異なっています。別れ行く姿は神々しく生まれ来るのはお一人で、亡くなっていくのも一人です。この世の人生を終わりに行く過程に関わりを持たせていただいて、早二十年が過ぎていますが、一人一人の終焉の仕方は異なります。そこに携わることのできることは意味深いことです。大切な出会いを無駄にしないようにかかわり続けていけたらと思う毎日です。

